

2019（平成31）年度 京都大学大学院薬学研究科 修士課程外国人留学生特別選考募集要項

本研究科の修士課程は、大学院設置基準第4条にいう博士課程の前期2年の課程である。

研究科の理念とアドミッション・ポリシー

薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献することを目指す。そのため、本研究科では、生命倫理を基盤に独創的な創薬研究を遂行しうる資質と能力を有する薬学研究者と、高度な先端医療研究を担いうる資質と能力を有する人材の育成を目指しており、その基盤となる、多様な能力としっかりとした基礎学力、医療人としての適正な倫理性を備え、自己の発想を大切に真理を探究する意欲に富む学生を求めている。

1. 募集人員及び専攻（分野）

募集人員 若干名

専攻	講座	分野
薬科学	薬品創製化学	薬品合成化学
		薬品分子化学
		薬品資源学
	薬品機能統御学	薬品機能解析学
		構造生物薬学
	薬品製剤設計学	製剤機能解析学
	精密有機合成化学	精密有機合成化学
	生体分子薬学	生体分子認識学
		分子ウイルス学
		免疫制御学
	生体機能薬学	遺伝子薬学
		生理活性制御学
	生体情報薬学	生体情報制御学
		生体情報制御学（ナノバイオ医薬創成科学）
		神経機能制御学
	生体機能化学	生体機能化学
	薬品動態医療薬学	薬品動態制御学
	病態機能解析学	病態機能分析学
		病態情報薬学
		生体機能解析学
医療薬剤学	医療薬剤学	
医薬創成情報科学	医薬創成情報科学	薬理ゲノミクス（ゲノム創薬科学）
		ケモゲノミクス（薬品有機製造学）
		システムバイオロジー
		システムケモセラピー（制御分子学）
		統合ゲノミクス

2. 出 願 資 格

在留資格が「留学」である者又は入学時に「留学」の在留資格を取得できる見込みの者で、次の各号のいずれかに該当する者又は平成31年3月末をもって該当する者

- (1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (2) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳に達した者
注1 出願者は、京都大学薬学部または薬学研究科協力講座において6ヶ月以上にわたって研究生として在籍した者に限る。ただし、本研究科が特に学業優秀と認めた者にあつては、この限りではない。出願においてはあらかじめ受験を希望する分野主任の了解を得ていることを条件とする。
注2 京都大学薬学部または薬学研究科協力講座の研究生として在籍期間が6ヶ月に満たない者は、出願に先立ち出願資格の審査を行うので、必要書類を本研究科教務掛に照会し、平成30年12月6日（木）までに、本研究科教務掛へ必要書類を提出すること。
注3 出願資格（3）により出願を希望する者は、出願に先立ち出願資格の審査を行うので、必要な書類を本研究科教務掛に照会し、平成30年12月6日（木）までに、本研究科教務掛へ必要な書類を提出すること。
注4 日本の大学を卒業した者は本選考の対象としない。

3. 出 願 手 続 等

出願予定者は、出願に先立ち、志望する分野の教員に申し出ること。

出願手続は、出願期間内に「インターネット出願システムでの出願登録」、「入学検定料納入」、「必要書類の提出」をすることにより完了する。

インターネット出願システムのページには、以下のURLからアクセス可能。

<https://www.univ-jp.com/kyoto-u-daigakuin/top>

- ・インターネット出願登録・入学検定料納入期間：平成30年12月17日（月）～平成31年1月8日（火）
- ・必要書類受理期間：平成31年1月7日（月）～8日（火）

(1) 出 願 書 類

角形2号の封筒（240mm×332mm）の表面にインターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷できる宛名ラベルを貼り付け、全ての出願書類を封入し郵送又は持参してください。

(ア) 志願票(入学願書)写真票	インターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷すること。 写真票には、上半身脱帽正面向きで、出願前3か月以内に撮影した写真1枚（縦4cm×横3cm、カラーも可）を枠内に貼付すること。 *後日、大学から送付する受験票に写真を貼付する必要があるため、あらかじめ同じ写真をもう1枚準備のこと。
(イ) 卒業証明書及び成績証明書	日本語・英語以外で記載されたものについては日本語訳を付すこと。
(ウ) 入学検定料	入学検定料 30,000円（国費留学生は不要） 支払い方法は、インターネット出願時に以下のいずれかを選択すること。 ※入学検定料の他に支払い手数料（500円）が必要。 ・コンビニエンスストア ・クレジットカード ・金融機関ATM ・ネットバンキング ※平成23年3月に発生した東日本大震災、平成28年4月に発生した熊本地震、及び平成30年7月豪雨による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は入学検定料を免除することがあります。詳しくは12月6日（木）までに薬学研究科教務掛へ問い合わせして下さい。

(エ) 受験票送付用封筒 長形3号の封筒(120mm×235mm)に受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し362円分の切手(速達)を貼付。

(カ) 住民票 在留資格、在留期間、在留カード等の番号が記載されたもの。

(カ) TOEFL受験者成績書 TOEFL受験者成績書(Test Taker Score Report)の原本を提出すること。詳細は、「6. 英語の学力評価について」を参照のこと。

(2) 出願方法

- (ア) インターネット出願登録と入学検定料納入後、出願者は前記出願書類(志願票、写真票、成績証明書、卒業証明書、受験票送付用封筒、住民票)を「〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 京都大学 薬学研究科教務掛」あて提出又は郵送すること。
- (イ) 郵送による場合は必ず書留速達郵便とし、封筒の表に「修士留学生入学願書」と朱書すること。
- (ウ) 出願書類等受理後は、出願事項の変更は認めない。また、入学検定料の払いもどしはしない。

(3) 願書受理期間

平成31年1月7日(月)～8日(火)午後5時まで。

ただし、1月7日以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

4. 障害等のある受験生に対する合理的配慮について

本研究科では、障害等があつて受験に配慮を必要とする入学志願者からの相談を受け付けます。受験上、配慮が必要な場合は協議いたしますので、平成30年12月21日(金)までに、薬学研究科教務掛へ申し出てください。

5. 入学者選考方法及び試験科目・試験日程

(1) 入学者の選考は、出願書類の内容、筆記試験及び面接試験の結果を総合して行う。

(2) 試験科目

英語	TOEFL-iBTの成績により評価する。
筆記試験	専門科目 受験者が出願時に選択した志望分野に関連する専門領域から出題する。
	日本語
面接試験	口頭により専門知識について試問する。

(3) 試験日程

年月日	試験時間	試験科目	試験会場
平成31年	10:00～11:00	専門科目	薬学研究科講義室
2月6日(水)	11:15～12:00	日本語	
	14:00～	面接試験	

6. 英語の学力評価について

- TOEFLの受験者成績書(Test Taker Score Report)の成績により英語の学力を評価する。
- 各自でTOEFL試験の申込手続きを行い受験すること。受験に必要な費用は各自で負担すること。
- TOEFL-iBT(Internet-based Test)のみを有効とする。TOEFLが実施する他の試験(団体試験であるTOEFL-ITPなど)は認められないので注意すること。
- 平成29年(2017年)2月1日以降に受験したTOEFL試験の成績を有効とする。
- 受験者成績書は原本に限り、コピーは受け付けない。また後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消す。
- 受験者成績書は試験当日に持参すること。(専門科目試験の開始前に回収する。)提出できない場合は英語の得点が0点となるので注意すること。
- 受験者成績書が送られてくるまで2ヶ月以上かかる場合があるので、出願者は余裕をもってTOEFL-iBT試験を受験しておくこと。

- ・受験者成績書は確認後、試験当日に返却する。
- ・TOEFL試験の詳細についての問い合わせ先は以下のとおり。
国際教育交換協議会(CIEE)・TOEFL事業部
TEL:03-5467-5489 URL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

7. 合格者発表

平成31年2月15日(金)午前10時頃薬学研究科掲示場に発表し、受験者全員に「合格者受験番号一覧を送付するとともに、合格者には「合格通知書」をあわせて送付する。
(電話等による照会には応じない。)

8. 入学料及び授業料 (国費留学生は不要)

入 学 料 282,000円
授 業 料 前期分 267,900円 (年額 535,800円)

※ 入学料及び授業料は予定額ですので、改定されることがあります。

※ 入学時及び在学中に改定された場合には、改定時から改定された新入学料及び新授業料が適用されます。

※ 納付時期等については合格者への入学案内送付(平成31年3月上旬頃)により通知します。

9. 個人情報の取り扱いについて

出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報(成績判定に関する情報を含む)は、①入学試験の実施、②入学者の受入準備・入学手続き等、③奨学金制度の目的において、「京都大学における個人情報の保護に関する規程」の定めるところにより取り扱う。

平成30年10月

京 都 大 学 大 学 院 薬 学 研 究 科

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町

(075)753-4504 (薬学研究科教務掛)

<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学大学院薬学研究科分野の研究内容

(薬学研究科ホームページ・アドレス：<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>)

E-mail アドレスは""を"@"に変えてください。

薬科学専攻

分野及び分野主任	研究内容
薬品合成化学 (TEL: 075-753-4553 E-mail: kay-t*pharm.kyoto-u.ac.jp) 教授 高須 清 誠	1) 生体内等で特異機能を発現する人工低分子の設計と開発 2) 生物活性天然化合物の合成 3) 活性種の特性を活かした高官能基選択的な変換反応の開拓 4) 高次分子変換のための実践的方法論の開拓
薬品分子化学 (TEL: 075-753-4528 E-mail: takemoto*pharm.kyoto-u.ac.jp) 教授 竹本 佳 司	1) 医薬品プロセス研究を指向した環境調和型有機分子触媒の設計 2) 生合成を模した糖鎖修飾ペプチド合成法の開拓 3) 元素特性を利用した高立体選択的な触媒反応の開発 4) 生物活性天然有機化合物およびその類縁体の全合成と創薬展開 5) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
薬品資源学 (TEL: 075-753-4506 E-mail: michihoi*pharm.kyoto-u.ac.jp) 准教授 伊 藤 美千穂	1) 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドの生合成機構の解明 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究 4) 吸入投与による精油の生薬薬理学的研究
薬品機能解析学 (TEL: 075-753-4521 E-mail: mkatsumi*pharm.kyoto-u.ac.jp) 教授 松 崎 勝 巳	1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明 4) 受容体の機能解析と創薬 5) NMRによる生体分子の構造解析
構造生物薬学 (TEL: 075-753-4617 E-mail: katohiro*pharm.kyoto-u.ac.jp) 教授 加 藤 博 章	1) ATP Binding Cassetteトランスポーターの構造薬理学研究 2) X線自由電子レーザーを用いたタンパク質結晶学研究 3) 巨大膜タンパク質の核磁気共鳴 (NMR) 分光学研究 4) 発光酵素反応の構造生物学研究
製剤機能解析学 (TEL: 075-753-4555 E-mail: yishiham*pharm.kyoto-u.ac.jp) 教授 石 濱 泰	1) プロテオミクス新規計測技術の開発 2) ヒトプロテオーム定量分析に基づく細胞機能解析 3) 細胞内リン酸化ネットワークの解明 4) 微量組織試料の大規模定量解析と臨床プロテオミクスへの展開 5) プロテオミクス技術を用いた分子標的創薬に関する研究
精密有機合成化学 (TEL: 0774-38-3190 E-mail: kawabata*scl.kyoto-u.ac.jp) 教授 川 端 猛 夫	1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用 2) 有機触媒による精密反応制御 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築 4) 分子認識および超分子化学に関する研究 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発
生体分子認識学 (TEL: 075-753-4572 E-mail: takeshim*pharm.kyoto-u.ac.jp) 教授 竹 島 浩	1) 小胞体 Ca ²⁺ シグナリングに関する研究 2) 中枢系の機能制御と情報伝達に関する研究 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

分子ウイルス学

(TEL : 075-751-4811 E-mail : ykoyanag*infront.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 小柳 義夫
- 1) ウイルスの感染メカニズムの解明
 - 2) レトロウイルス複製への細胞性因子関与における分子様式解析
 - 3) エイズウイルス感染による免疫機構破壊過程と発症メカニズムの解明
 - 4) 新規抗ウイルス療法の開発
-

免疫制御学

(TEL : 075-751-4012 E-mail : ikuta.koichi.6c*kyoto-u.ac.jp)

- 教授 生田 宏一
- 1) 免疫寛容・免疫応答・免疫記憶の制御
 - 2) サイトカイン受容体発現の制御機構とその機能
 - 3) ステロイドと概日リズムによる免疫系の制御
 - 4) 免疫微小環境の可視化と局所機能ならびに慢性炎症疾患との関係
-

遺伝子薬学

(TEL : 075-753-4539 E-mail : miyakea*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 講師 三宅 歩
- 1) 細胞増殖因子(FGF)の脂肪組織、脳形成などにおける役割の解明
 - 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
 - 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
 - 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
 - 5) 組織形成、組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用
-

生理活性制御学

(TEL : 075-753-7684 E-mail : igaki*lif.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 井垣 達吏
- 1) 細胞競合の分子機構
 - 2) 細胞間コミュニケーションを介したがん制御機構
 - 3) 細胞老化を介したがん制御機構
-

生体情報制御学

(TEL : 075-753-4527 E-mail : kazunaka*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 中山 和久
- 1) 繊毛内タンパク質輸送と繊毛形成の調節機構に関する研究
 - 2) 生体膜の脂質非対称性の制御による細胞機能の調節機構
 - 3) 細胞内タンパク質輸送の調節機構に関する研究
-

生体情報制御学 (ナノバイオ医薬創成科学)

(TEL : 075-753-9556 E-mail : kazushmz*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 寄附講座教授 清水 一治
- 1) 食道がんの発症・転移機構の解明と創薬分子標的(受容体FGFRL)及びその抗体の研究
 - 2) 血中循環がん細胞(CTC)の捕捉研究とがん診断への応用

(TEL : 075-753-9576 E-mail : yonehara.shin.8s*kyoto-u.ac.jp)

- 寄附講座教授 米原 伸
- 3) 新しい非アポトーシス細胞死の分子機構と生理機能
 - 4) 細胞死関連因子の生理・病理機能
 - 5) 発がん・免疫・発生と細胞死
-

神経機能制御学

(TEL : 075-753-4547 E-mail : mnegishi*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 根岸 学
- 1) 細胞形態及び細胞運動における Rho ファミリー低分子量 G 蛋白質の機能の研究
 - 2) 細胞形態及び細胞運動における Ras ファミリー低分子量 G 蛋白質の機能の研究
- (H31.3 退職予定)
- 准教授 加藤 裕教
-

生体機能化学

(TEL : 0774-38-3210 E-mail : futaki*scl.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 二木 史朗
- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
 - 2) ペプチドを基盤とするバイオ高分子の細胞内導入法の開発とその原理
 - 3) 生体膜の構造変化を誘起する蛋白質・ペプチドの機能設計
 - 4) 人工転写調節蛋白質の設計と遺伝子発現制御
 - 5) 膜蛋白質の会合制御とシグナル調節
-

薬品動態制御学

(TEL : 075-753-4545 E-mail : higuchi*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 講師 樋口 ゆり子 1) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
教授(兼)山下 富義 2) ナノ製剤の物性/薬効/毒性相関の分子機構解明と評価技術の開発
3) ドラッグデリバリーシステム技術を活用した細胞製剤化に関する研究
4) ケモインフォマティクス技術に基づく薬物動態特性のインシリコ予測

病態機能分析学

(TEL : 075-753-4556 E-mail : ono*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 小野 正博 1) 脳疾患、がん、糖尿病などでの生体機能変化をインビボ解析する分子
イメージング法の開発とそれによる病態及び薬物作用の解明に関する研究
2) 病態の特性に基づく標的部選択的移行、選択的活性化をおこす機能性画像診
断・治療薬剤の創薬研究
3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学

(TEL : 075-753-4615 E-mail : takakura*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 高倉 喜信 1) Exosome を利用したドラッグデリバリーシステムの開発
2) 遺伝子導入技術を基盤としたサイトカイン・免疫療法の確立
3) 核酸ナノ構造体を利用したタンパク質・核酸医薬品デリバリーシステムの開発

生体機能解析学

(TEL : 075-753-4541 E-mail : skaneko*pharm.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 金子 周司 1) TRP チャネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする病態生理機能解析、分子機構、
薬効解析、ゲノム科学に関する研究
2) 神経・グリア・免疫細胞連関の病態および薬効への寄与に関する研究
3) 痛みの発生制御基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
4) 薬物有害事象や薬物依存の分子および細胞メカニズムに関する研究

医療薬剤学

(TEL : 075-751-3577 E-mail : kmatsuba*kuhp.kyoto-u.ac.jp)

- 教授 松原 和夫 1) 医薬品の副作用・毒性の発現機序および対策に関する研究
(2020.3 退職予定) 2) 分子標的型抗がん剤の薬効・副作用と血中濃度の相関に関する研究
准教授 中川 貴之 3) 医薬品の有害反応に関する疫学的調査研究
4) 中枢および末梢神経障害の病態と治療薬に関する研究
5) 疼痛の病態生理と鎮痛薬、緩和医療に関する研究

医薬創成情報科学専攻

分野及び分野主任

研究内容

薬理ゲノミクス（ゲノム創薬科学）

(TEL : 075-753-4543 E-mail : akira_h*pharm.kyoto-u.ac.jp)

准教授 平澤 明

- 1) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
 - 2) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
 - 3) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現
-

ケモゲノミクス（薬品有機製造学）

(TEL : 075-753-4571 E-mail : hohno*pharm.kyoto-u.ac.jp)

教授 大野 浩章

- 1) 複雑な化学構造を有する生物活性化合物の合成と創薬展開
 - 2) 複雑な化学構造を一挙に構築するための新反応の開発
 - 3) 新しいペプチド・ペプチドミメティクスの化学合成法の開発と応用
 - 4) Gタンパク共役型受容体リガンド・プローブの創製
 - 5) 化合物ライブラリーの構築と応用
-

システムバイオロジー

(TEL : 075-753-9555 E-mail : doimasao*pharm.kyoto-u.ac.jp)

教授 土居 雅夫

- 1) 時間医薬科学の創成を目指した先端的システムバイオロジー研究
 - 2) 体内時計を基盤とした老化・加齢の時間治療戦略の開発
 - 3) G蛋白質共役受容体による睡眠・代謝・環境適応の脳内基盤の解明
 - 4) 生体リズム異常による生活習慣病の解明とヒトへの臨床応用
 - 5) 化合物ライブラリー網羅探索に基づく生体リズム調整薬の創出
-

システムケモセラピー（制御分子学）

(TEL : 075-753-4524 E-mail : hkakeya*pharm.kyoto-u.ac.jp)

教授 掛谷 秀昭

- 1) 多因子疾患（がん、心疾患、感染症、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究
 - 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
 - 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメディシナルケミストリー研究
 - 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル生合成研究等）
-

統合ゲノミクス

(TEL : 0774-38-3270 E-mail : ogata*kuicr.kyoto-u.ac.jp)

教授 緒方 博之

- 1) ウイルスゲノムの多様性理解と機能解析
 - 2) 微生物群集と環境の相互作用の解明
 - 3) 医科学と環境保全への応用を目指した大規模遺伝学データの統合
-